

令和8年7月1日（水）、今年度第1回となる「京都市地域企業未来力会議」が、コミュニティバンク京信 本店 京信ホール（京都市下京区）で開催された。当日は、地域企業の経営者や従業員をはじめ、金融機関・支援機関の職員、京都市職員、学生など、多様な立場の参加者が一堂に会した。会議では、今年で10年の節目を迎える地域企業応援プロジェクトの歩みを振り返るとともに、令和8年度の事業方針や年間の取り組みについて共有。続いて行われたダイアログ（対話）では、『京都の地域企業が、地域とともに成長を続けるために、ビジネスを通じて仕掛ける「次の一手」とは』をテーマに、参加者それぞれが自身の実践や想いを持ち寄りながら意見を交わした。地域とともに成長していくために必要な視点や、新たな共創の可能性を探る時間となり、立場や業種を超えた共創の種が各テーブルで生まれていた。



第1部：開会

京都市産業観光局長

草木 大



2016年に開催した「京都市中小企業未来力会議」の議論の中で、「京都の中小企業は地域に根ざした『地域企業』である」という考えが生まれました。その理念は「京都市地域企業の持続的発展の推進に関する条例」の制定へとつながり発展を続けています。

地域企業は、地域との深いつながりを大切にし、一人ひとりが京都の未来を真剣に考えながら、地域とともに成長する挑戦を重ねてきています。

これまで築いてきたつながりを未来へつなぎ、地域企業同士の対話や共創を通じて、京都がさらに魅力あふれるまちとなることを目指し、本会を開催します。

京都府中小企業団体中央会

会長 安藤 源行 氏



中小企業を取り巻く環境は依然として厳しく、乗り越えるべき課題があります。

1つ目は、人手不足に対応するための「生産性向上」です。人を増やすだけでなく、デジタル化やAI、業務の自動化を活用し、効率的な事業運営を進めることが重要です。

2つ目は、「付加価値」の創出です。既存の技術や強みを掛け合わせ、新たな価値を生み出すことも大事です。

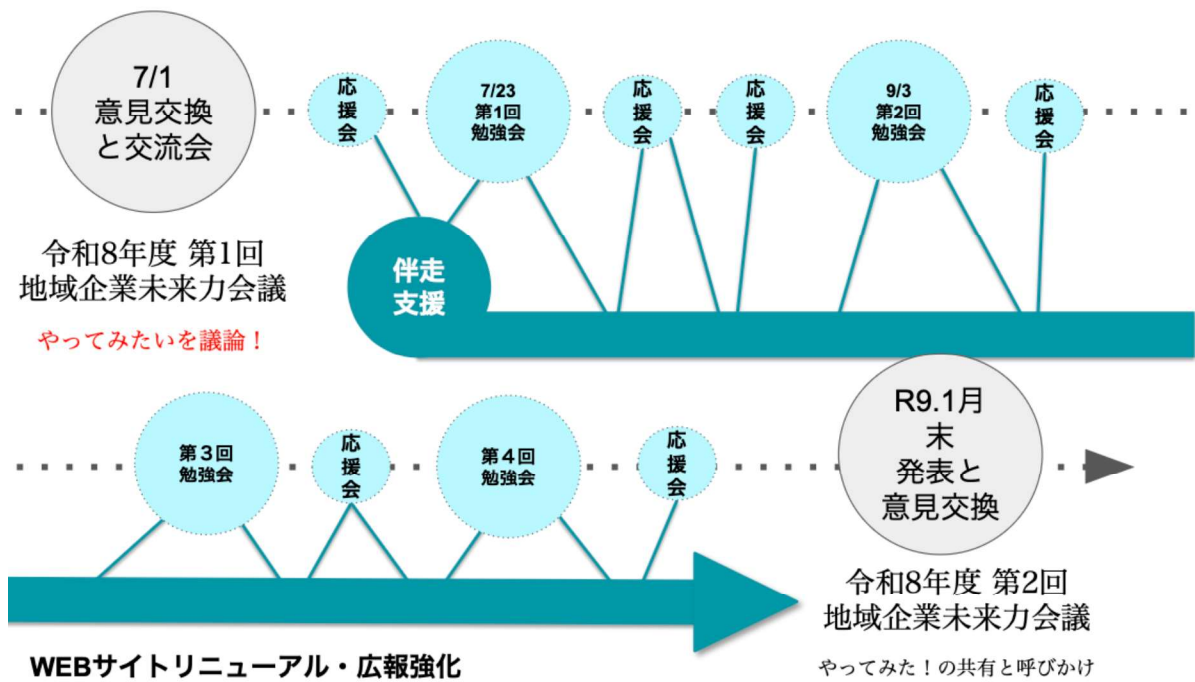
3つ目は事業承継です。後継者不足が進む中、事業を未来へつなぐ仕組みづくりが必要です。これらの課題解決につながる議論が生まれることを楽しみにしております。

これまでの10年の歩みと今年度の流れについての共有

主催の京都市、運営の（一社）リリースより、地域企業応援プロジェクトのこれまでの変遷とともに、本年度の事業の説明があった。



今年度の流れ



「京都・地域企業応援プロジェクト」の6つの取組

これまでの京都・地域企業
応援プロジェクトの歩み



① 京都市地域企業未来力会議

多様な業種の経営者等が集まり、領域を横断した議論を展開しながら「社会課題」や「地域課題」、「経営課題」の解決につながる新たなビジネスアイデアの創出を図ります。今年度も、地域企業や行政等が社会の課題解決に繋がり地域と共に成長できるテーマやビジネスアイデアについて議論・共有・検討を行います。

② 京都・地域企業勉強会

地域企業宣言に沿って、事業承継や担い手不足など企業の共通課題に関する先進的な取り組みを知り、問いを掘り下げ学び合う場です。本年度は計4回開催を予定し、学びと連携が生まれる機会を目指し開催します。

③ 京都・地域企業応援会

地域企業が展開する事業アイデアの具体化・実現に向けて、幅広い知見を持ったビジネス・コーディネーターから助言やヒントを得られる機会です。計画へのアドバイスだけでなく、地域企業間の連携支援等も年間を通じて実施することで、地域とともに歩む地域企業を応援します。本年度は専門人材も交えてより確かなサポート展開を進めます。

④ 地域企業未来の祭典

京都市地域企業未来力会議から生まれた、事業者連携による新たな可能性を模索する公益的な社会実験の祭典。本年度は8月1日から12月31日までを祭典期間とし、京都市が地域企業と連携して開催します。社会実験としての祭典とすることで、1社だけでなく地域の共通課題として取り組むことができる機会を創出します。

⑤ 伴走支援

応援会での点でのサポートを、伴走という線で繋ぎ実践に向けて支援を行います。応援会参加企業を中心に、アイデアからビジネスモデルの構築、事業計画、社会実験（仮説検証）、事業のローンチまでを目指したサポートを行います。

⑥ WEBサイトのリニューアル

社会実験から生まれた取り組みや事業の発信から、「京都市 輝く地域企業表彰」等の企業の活動、これまでの地域企業の歩みを発信するサイトへとリニューアルを予定しています。

<ダイアログセッション | 前半>

テーマ：「地域とともに成長を続ける」 ために、自社や地域にもっと必要なこと



上記テーマについてグループごとに議論を行った。自社の取り組みの共有や地域が何を必要としているかを互いに問いかけるグループなど色々な視点での議論が展開された。その後、各グループから議論の内容が全体に共有された。

【全14テーブルのうち、共有された一部議論を抜粋し掲載】

文化から、京都に繋がりを生み出す

京都市外から来られた方が、何をきっかけにまちと繋がるのか？ 演劇に参加する、料理を一緒につくる/食べる、京都を知るプログラムに参加する。いろいろな機会があるからこそ、京都が育んだ文化からつながってほしい。

妄想→想像→計画へ

もしかすると、イノベーションの原石となる「妄想」が足りないのかもしれない。京都という盤石なブランドと歴史が、突飛な妄想を生み出すことを阻む見えない壁になっているかもしれない。もっと妄想ができる場や環境が必要かもしれない。



企業と学生が信頼を築く機会

京都の大学生が地域や企業で活躍・就職するためには、企業活動の発信といったブランディングだけでなく、深い信頼関係を築くことが大切。そのための接点が必要であり、イベント的なハレの日だけでなく、ケの日での関わりしろも大事になる。



育てながらつなぐ、京都らしいコーディネート

ただ企業間の繋がりを生むのではなく、対話や学びを通じて互いの強みを磨きながら繋がることで、より良いマッチングが生まれてくる。繋がることで価値が生まれるように育むことが、地域と共に成長するご縁に。

多様な人材も活躍しやすいまちのポテンシャル

外国から京都に学びに、働きに来ている多様な人材が、言語や文化の違いで就労ができない課題がある。「バックグラウンドに関係なく、事業・会社の成長に貢献する多様な人材を受け入れられるようになるには？」の問いが生まれた。

尊敬と共創のコミュニティ

地域企業同士の距離が近く、互いに支え合いながら成長する文化がある。成功だけでなく失敗も共有し学び合える場や、挑戦でき失敗もできる場をつくり続けることが大事。そうした多様な人が集うコミュニティには尊敬が不可欠で、そこから共創に繋がる仕掛けが必要。



<ダイアログセッション | 後半>

テーマ：京都の未来力を育むために地域企業等が連携し、いま取り組むべきこと 「チャレンジしたい」ビジネスは？

前半の議論を踏まえながら、地域企業等が互いに連携することで生まれる新たな可能性についてグループごとに議論を行った。いまだのようなチャレンジができるのか、具体的なビジネスや取り組みのアイデアが交わされた。その後、各グループから議論の内容や生まれたアイデアが全体に共有された。



誰もが主役になる「屋台化」

誰もが主体となって活躍できることを願い「屋台化」というコミュニティを形成中。一人一人が自分の屋台を持って、やってみたいことを体現する。そんなことができるまちになる実験をしたい。

京都生まれ京都市育ちの 「循環商品」

京都産のレモンを使った新ジャンルのドリンクをリリースした。地域で育てた食材を地域で組み合わせて販売する「循環」する商品にチャレンジしたい。



負担は軽減、効果は拡大 「共創型インターンシップ」

学生募集の広報から教育までを1社で完結するのはハードルが高い。地域企業で連携し負担を減らしながら、お互いの魅力を引き出せるかもしれない。また、若者同士が魅力ある企業を教え合うような新しい取り組み方法も発明したい。

結果を生み出すための 「伴走支援」の継続

アーティストとビジネスをつなぎ、形にする。矛盾するような課題を解決するために、「伴走支援」をどう継続していくか。



地域企業を体験する 「京都地域企業博」

閉校した学校の活用も兼ねて、中小企業家同友会が進める「こどもシゴト博@右京」が好評。京都市内全域に拡張して、京都全体でのシゴトの博覧会が開催できれば。

多彩なコミュニティを可視化 「京都コミュニティMap」

京都には、多種多様なコミュニティが点在し、色々な課題をそれぞれが持っている。活動内容と課題がMapで可視化され、「人」がつながり合うことで発展していくことができそう。



ダイアログから生まれてきた「問い」と「兆し」

- ・まちづくりに興味がなくとも、まちを支えている方に参画してもらうには？
生まれた兆し：野外上映にはいろんな人が集まる。
「まちづくり」とは別の関わりしろが、参画につながるかもしれない。
- ・学生と企業の関係の深め方は？
生まれた兆し：『企業戦士カード』のように、学生間に企業の認知が広がっていく「アイテム」が活躍したり、根気よく出会いが生まれる機会を作り続けていくことかもしれない。

第2部：交流会

交流会では参加者同士で親睦を深める時間となった。ダイアログセッションの延長戦で議論が続く方、本年度の社会実験やその連携について話を深める方など、地域企業として今後のアクションの話で盛り上がった。

